

■2005年後半(7月～12月)■

日本ユニセフ協会創立50周年記念事業 27回ユニセフ ハンド・イン・ハンド

12月18日(日) 佐賀市、東与賀町、上峰町

12月23日(金) 鹿島市

- ◆18日のハンド・イン・ハンドは大変冷たい北風のなか、県内4つの会場で、『～手と手で結ぶ、子どもの未来～』をテーマに実施されました。
- ◆鹿島市でのハンド・イン・ハンドは冷たい雨の中、2つの会場で行われました。ボーイスカウト鹿島第一団の皆様と指導者・保護者の皆様が「ユニセフ募金にご協力をお願いします。」と夕方の買い物客に呼びかけました。ボランティアの皆さまの熱い呼びかけに、荷物や傘を手に持ったお客様も足をとめて募金協力をしてくださいました。
- ◆総勢200名余りのボランティアさんが、募金協力をしてくださる支援者の皆様と手を結んで、世界の子どもたちが未来に希望を持って生きられるようにと、頑張ってくださいました。



ボーイスカウト鹿島第一団の皆さん



佐賀市会場(佐賀玉屋デパート前)



上峰町会場(上峰サティ)



東与賀町会場(イオンスーパーセンター佐賀店)



大和会場(ジャスコ佐賀大和店)



鹿島市会場(モリナガ)



鹿島市会場(ピオ)

募金贈呈式

12月13日(火) 事務所にて

- ◆鍋島中学校1年6組の皆さんは、「総合的学習の時間」でユニセフを通して世界の子どもたちの現状について調べ、自分たちに何が出来るかを話し合いました。
- ◆文化発表会で、調べたことをもとにパソコンで発表したり、「子どもの兵士」についての劇を作って、周りの友達も巻き込んで劇の発表をしたりしました。

生徒の声

◆「文化発表会を見に来られた皆さんや、全校の生徒や先生たちにユニセフで調べたことを伝えられたのでよかった。みんなにユニセフ募金協力を呼びかけました。『がんばってね。』『発表がよかった。』と言って募金してもらってうれしかったです。」



「ふれあい人権フェスタ2005」にて

子どもの権利条約パネル展&日本ユニセフ協会佐賀県支部の活動紹介

12月10日(土) 千代田町はんぎーホール・千代田町保健センター

ユニセフ授業

11月30(水) 三潞郡大木町立大溝小学校

総合的学習の時間「何かができる…自分たちにできるボランティア」② ～命と水～ ユニセフサポーターになろう

- ◆6年生(63名)の皆さんは11月9日の「～世界の子どもたちは、今～」の学習に続いて、「～命と水～:ユニセフサポーターになろう」で更に考えを深め、自分にできることを考えこれから行動に移します。

子どもの声

- ◆水を運ぶのはとてもきつかった。重たくてとちゅうでこぼそうかと思ったけど、大事な水だからこぼさないようにいっしょうけんめいがんばった。
- ◆子どもたちが毎日、こんなに重いを持って何回も水を運んでいるなんてびっくりした。



ネパールの水がめで水を運んでみよう



スペシャルドリンクを作ろう



水運びをして思ったことを話そう



ミズ・クイズをしよう

みやき町立三根中学校3年生 事務所訪問

11月16日(水)



- ◆三根中学校3年の生徒さんが、総合的な学習「共生～国際協力～」について調べるため事務所を訪問されました。
- ◆ストリートチルドレン(モンゴルのマンホールチルドレンを中心に)や、パキスタン地震、中学生にできる協力などについて学習されました。

生徒の声

- ◆私は将来、ボランティアでユニセフがしている事などをしてみたいです。これからは積極的に募金活動などに協力したいと思います。
- ◆ストリートチルドレンについて知ることができました。周りに伝えることも協力になるので、友達や先生に伝えていこうと思います。

ユニセフグッズの頒布

11月13日(日) 佐賀バプテスト教会にて

ユニセフグッズの頒布

11月12日(土) 第18回かたりべの里本庄祭会場(佐賀市立本庄小学校)にて

例年出店させていただき、本庄校区の皆様にお顔馴染みの方もできてユニセフ支援の活動を知っていただく交流の場となっています。



ユニセフ授業

11月9日(水) 三潁郡大木町立大溝小学校

6年生(63名)の皆さんは総合学習の時間に「何かができる…自分たちができるボランティア～世界の子どもたちは、今～」をテーマに、世界には様々な困難な状況下におかれている子どもたちがたくさんいることをワークショップやユニセフのパネルを使ったフォトランゲージ、ビデオなどで学習しました。



子どもたちの声

- ◆ぼくは、プレートに書いてあった場所へ動くのが頭に残っています。ぼくは、北アメリカ・中米の所でしたが、アジアはいっぱいぼくたちの所の10倍ぐらいあったのでびっくりしました。アジアの人の数ってむちゃくちゃ多いんだなあと思いました。そして、オセアニアが少ないのにもびっくりしました。大溝小に来てくれてありがとうございました。
- ◆私はユニセフの方のお話を聞いて自分を見直すことができました。今までの自分は、ご飯を平気で残したり、いらなくなった物を平気で捨てたりしていました。でも今、私を変えたいなあと思っています。ご飯をきちんと食べたり物を大事に使ったりしていったら自分は変われるような気がします。私の知らない世界をもっともっと知っていきたいし、私にできることを考えていきたいです。

パネル展&ユニセフグッズの頒布

11月6日(日) 小城市ふるさとまつり会場(小城公園)にて

- ◆旧小城町、旧三日月町、旧牛津町、旧芦刈の四町合併記念「小城市ふるさとまつり」が開催されました。
- ◆小城中学校生徒会25名の皆さんは、時折降る雨の中、傘をさしての募金活動をしてくださいました。生徒会の皆さんがステージ前で「パキスタン地震緊急支援の募金をしています。瓦礫に埋まった村々で、寒さに震えながら子どもたちが支援の到着を待っています。ご協力よろしくおねがいしま〜す！」と呼びかけると、多くの皆様が協力してくださいました。



パネル展&ユニセフグッズの頒布

11月3日(祝) 佐賀幼稚園バザーにて

伝統の現役および卒業生のお母様方総出の心温かい手作りバザーが開催されました。今年もその一画をお借りして、パネル展示とユニセフグッズの頒布を行いました。

ユニセフグッズの頒布

11月3日(祝)~6(日) 緑のテラス・清水(上有田う~たん通り)にて

第9回う~たん通り秋の窯祭りが上有田で開催されました。今年も期間中、オーナーご夫妻のご厚意により、ユニセフコーナーを設けていただきました。散策の合間に立ち寄ったお客様が手作りのスコーン、リンゴジャム、お好みのお飲み物という温かいおもてなしを受けながらユニセフグッズを手にしてくださいました。

ユニセフ授業

10月24日(月) 佐賀市立巨勢小学校

- ◆4年生の皆さんは道徳「生き方を見つめる」の授業の中で、ユニセフの活動を聞き、命の大切さや思いやりの心・互いに助け合って生きていくということの大切さについて勉強されました。



5歳まで生きられない命



水運びをしてみよう



ORS(経口補水塩)を作ろう



ボランティアの「ユニセフ活動に関わる思い」を聞こう

子どもたちの声

- ◆ユニセフの方にきていただいてありがとうございました。5才の誕生日を迎えることができない子がたくさんいることや、水を自由に飲むことができない場所があることなどいろいろ教わりました。私はテレビで地しんのことなどを見て何かできることはないのかなと思っていました。テレビにうつる人々の顔はみんなしんけんでした。今、日本は平和なのに同じ地球の人なのに…と思っています。
- ◆ぼくはユニセフで学んでとても一人一人が大切だなと思いました。そして人を大切にしなければならぬと思いました。本当にそういうことを教えてくれてありがとうございました

パキスタン大地震緊急支援募金活動

10月23日(日) ジャスコ佐賀大和店(佐賀市大和町)



- ◆佐賀県支部では、パキスタン大地震被災地におけるユニセフの活動を支援するため緊急募金活動を行いました。
- ◆小学生、中学生、高校生の皆さんを含め15名のボランティアで「パキスタン地震の被災地では子どもたちが寒さに震えています。毛布が足りません。テントが足りません。」とお客様に募金を呼びかけました。

嬉野中学校3年生 事務所訪問

10月22日(土)

◆嬉野中学校3年生の生徒会役員の皆さんは文化祭の準備のために事務所を訪問されました。

◆実行委員長は、「ビデオを見て、世界には汚れた水しか飲めない人々や武器を持たされて戦場に行かなければならない子どもたちがいることを知った。このことを嬉野中の生徒に知らせて、自分たちは幸せに暮らしているということを改めて実感して欲しい。そして、このような過酷な状況の中におかれている子どもたちのために、自分たちにできることを考えて支援していきたい。」と意気込みを語ってくださいました。



鳥栖市主催「健康福祉まつり」会場にて

ユニセフグッズの頒布

10月16日(日) 鳥栖市文化会館



- ◆コープさが鳥栖基山エリア委員会ユニセフバザーのブースで、ユニセフグッズの頒布と、パキスタン緊急支援募金を行いました。
- ◆「コープさが」でも「パキスタン大地震緊急募金」に取り組んでいます。店舗に募金箱を置いたり、カタログ配布のときに募金協力のチラシを入れたりしてくださっています。

「さが国際交流・協カフェスタ2005」会場にて パネル展&ユニセフグッズの頒布

10月16日(日) 佐賀市アバンセ

パネル展

「すべての子どもに教育を」



パキスタン大地震緊急募金活動



- ◆成章中学校3年生の皆さんは、飛び入りで募金活動に協力してくださいました。
- ◆多くの皆様がパキスタン大地震に関心を持ち募金協力をしてくださいました。

ユニセフグッズの頒布



◆総合学習の発展で会場に見学に来た中学生の皆さんは、女子の初等教育の重要さに大きな関心を持ちました。

◆「カードを1枚買っていただくと、このORS(経口補水塩)を12袋も子どもたちのもとへおくことができますよ。」とカードによるご協力を呼びかけました。

鍋島中学校1年生 事務所訪問

10月13日(木)

- ◆総合的学習の時間で、福祉グループに所属する4人の生徒さんが、「町の人たちと協力して募金活動をしよう」というテーマに取り組んでおられます。
- ◆今日は、世界の子どもたちのために募金活動に取り組んでいるユニセフを知り、ユニセフについてより深く調べるために事務所で勉強をされました。
- ◆「いろいろと知ることができてよかった。もっと時間があつたらよかった。また来たい。」との感想でした。



第4回夏休み親子交流会 in プラザ

「戦後60年～ユニセフと危機にさらされる子どもたち～」

8月29日(月) i スクエアビル(JR佐賀駅南口)にて

戦後60年の節目の年、夏休みの一日をプラザで過ごす親子にユニセフのパネルやビデオ、クイズなどを通して“戦争と平和&子ども”について考えていただきました。



パネル「紛争下の子どもの人権」



クイズコーナー

パネルの説明をヒントに「ユニセフ〇×クイズ」に親子で挑戦



「地雷」コーナー

「蝶型地雷」の説明を聞く子どもたち

子どもたちの声

- ◆子どもが兵士になっているのが一番びっくりしました。だって私ぐらいの子どもがなっているから。(小4)
- ◆子どもたちに予防注射をするために戦争をとめたのがすごい。びっくりした。(小5)
- ◆私はこんなに幸せなのに、今もどこかの国で子どもたちが戦争でなくなっていることが本当にあることなのか、ありえないと思った。信じられない。地雷は命は助かって一生のケガをするおそろしい物だ。びっくりした。(小6)

先生のためのユニセフ学習会

8月27日(土) アバンセにて

- ◆地球共育の会・ふくおか副代表の松本亜樹先生をファシリテーターとして迎え「マジカルバナナ」のワークショップをしました。
- ◆食料自給率40%の日本で、毎日何げなく「買ったり」「食べたり」していることが、世界の人々の暮らしとどのようにつながっているのか身近なバナナを例にして考えてみました。



バナナの語源や種類、生産地などのクイズでアイスブレイキング



産地、値段、検査、生産過程、生産量、収穫後、輸出経路、生産者...
などを書いたカード。このカードはどちらのバナナの説明かしら？
ふたつのバナナを比べながらカード分けをしよう。



カードを分けたら裏返してみよう。
正解だったらパズルの出来上がり！

比べてみよう！！
ふたつのバナナ
キャベンティッシュ
OR
バランゴン



バナナの向こうに今まで見えなかった世界が見えてきました。

学習会参加者の声

- ◆いつも何気なく食べているバナナの背景について、考えたこともなかったホストハーベストの農薬のお風呂、シャワーにはゾーッとした。危険を背負いながら働いている人々にはバナナの売り上げのほんの5%も渡らないということにびっくりした。
- ◆それぞれ的一本のバナナの向こうには違う人々の生活が見えてきました。スーパーに並ぶバナナだけに限らず、それぞれの品物の向こう側をちょっと意識し始める気がしてきました。
- ◆今まで一円でも安いものと思って新聞のチラシをチェックして買物をしていましたが、今日「知ってしまった」ので、これからは「なぜそんなに安くできるのか？」を考えたりにできれば勉強したりしていきたいと思います。
- ◆今回の内容を再構成して授業をやってみたいと思いました。(保護者の皆さんにも考えてもらえるように授業参観で)
- ◆子どもたちが大好きでどこでも手に入るバナナからこんなに奥の深い学びが作れることに感動しました。ぜひ、持ち帰って学習を組み立て実践し、仲間にも紹介したいと思います。

ユニセフ写真展&講演会

忘れられた子どもたち「HIV/エイズの危機と子どもたち」
7月20日(水)～7月31日(日) 佐賀市立図書館にて

ユニセフ写真展 ～忘れられた子どもたち～「HIV/エイズの危機と子どもたち」



夏休み期間中であったため、多くの子ども連れや若い人たちに見ていただきました。

スタッフの説明を
熱心に聞く中学生

クイズコーナーで
HIV/エイズの理解を



佐賀県環境整備事業
協同組合青年部の皆
さんが社会貢献活動
の一環として回収した
書き損じはがきと使用
済み切手を写真展会
場まで届けてくださ
いました。

来場者の声

HIV/エイズによって両親を亡くしてしまった子どもたちだけど、
これからの時代を生き抜いていく素敵な笑顔が見られた。
クイズも知らないことを知れてよかった。
ユニセフに協力してこの笑顔を守っていきたい。(大石)

いつも子どもは被害者であり、大人の間違った行動で傷つけ
られていることをもっと訴えてよい。(鷺崎)

マスコミ等で報道されない面が見られてよかった。(赤坂)

講演会

7月23日(土) 佐賀市立図書館にて

講師 武富弥栄子先生(佐賀大学保健管理センター)

演題 「HIV/エイズ 日本では…」

『先進工業国でHIV/エイズが増えているのは唯一日本だけ
である。【音のない戦争】は静かに、しかし確実に足元に忍
び寄っている…』とのお話しに参加者も真剣に耳を傾け、
会場からは多くの質問も出されました。
また、前佐賀中部保健所長の太田先生も「予防教育」の大
切さを力説されました。



講演会参加者の声

- ◆ HIVとエイズの違いや予防法が分かってよかった。(A)
- ◆ エイズについて漠然と知っているつもりでしたが、今日の話聞いて我が子の世代に危機が迫っていると感じました。親子の断絶とかコミュニケーションがとれていないなどと言っている場合ではなく、大人から子どもたちへ正しい知識を与え、また、偏見を持たないようにしていきたいと思いました。今日は来てよかったです。帰宅して家族や同世代の子どもを持つ周囲の人たちへも教えたいです。(太田)

ユニセフパネル展&グッズの頒布

7月24日(日) 第8回萩居流 チャリティー古典舞踊ゆかた会々場にて
(鹿島市生涯学習センター エイブル)

- ◆萩居流は日舞の新しい流派として東京に創設されました。
- ◆九州でも萩居会としてお稽古をするようになって15年になるのを記念して、チケットの売り上げの一部をユニセフへ募金してくださいました。
- ◆第8回を迎えるゆかた会はリーズナブルにできるうえに、ユニークなプログラムが組まれていることから大変好評で、会場はお客様であふれていました。皆様のユニセフへの理解も深く、大変有意義な一日になりました。(事務局メンバー)